

持続可能な農業を目指して三洋化成と新富町が連携協定を締結

三洋化成工業株式会社
宮崎県新富町

三洋化成工業株式会社（本社：京都市東山区、代表取締役社長：安藤孝夫、以下、三洋化成）と宮崎県新富町（町長：小嶋崇嗣、以下、新富町）は、持続可能な農業を目指して連携協定を締結しましたので、お知らせいたします。

三洋化成は、「企業を通じてよりよい社会を建設しよう」という社是のもと、「もっと安全・安心・快適に」のニーズに応え、持続可能な社会の実現に貢献する製品の開発に取り組んでまいりました。近年は重点分野として、エネルギー分野、バイオメディカル分野に加え、人々の健康と暮らしを支える農業分野にも注力してまいりました。三洋化成はこれまで培った界面制御技術をはじめとする化学技術によって、農業分野の課題に応えるソリューションの提供を目指しています。

その1つとして、三洋化成では農業におけるペプチド^{*1}の活用を研究開発しています。特定のペプチドを与えることで、植物に不足している性質を発現させ、従来の品種改良と比較して、安心して簡単に植物の様々な機能を引き出すことが可能です。その結果、病害虫や気候変動による被害を防ぎ、農作物の収量や品質を向上することが期待されます。

本技術を農作物の育成に活用し、持続可能な農業に貢献できる技術の実用化に向けて、新富町と連携協定を締結しました。

新富町は、基幹産業である農業の振興発展に向けた取組の拠点となる新しい農業公社『一般社団法人ニューアグリベース』を設立しました。本法人では、地域農業者、行政、農協、企業等が一体となり、新たな農業生産技術の研究開発、新規作物の産地化及び地域農業者の人材育成や担い手確保に取り組むことにより、地域農業が抱える課題の解決や新たな農業生産システムを構築します。更に、新たな販路拡大及び出口戦略等の取組を行い、攻めの農業を実施することによって地域農業者の農産物の収量増及び所得の向上等に繋げるとともに持続可能な地域農業の実現を目指します。そのため、新富町では、農業技術の試験研究、新規作物の産地化等の実証実験を実施可能とする試験研究用ハウス施設等を整備します。

三洋化成は、その試験研究用ハウス施設等を地域農業者と共同研究の場として活用し、次に挙げるような「ペプチド農業」の実証検討を行うことにより、農業関係者との連携及び試験研究の拡充、地域農業者への普及啓発を行います。

- (1) ペプチドを用いたキュウリの生育促進
- (2) ペプチドを用いたぶどう等果実の機能性成分量（ポリフェノール等）の向上
- (3) 機能性食品への加工による（2）の高付加価値化（ジュースやワイン等）

本協業を通して、三洋化成と新富町は、ペプチド等の有用技術を用いた新しい農業を確立し、持続可能な農業の実現を目指してまいります。

【連携協定の概要】

三洋化成と新富町は、連携協力を推進することにより、持続可能な地域農業の振興と発展に寄与することを目的とする。

- (1) 地域資源及び営農研究・実証実験成果を活かした新たな農業生産の構築に関すること。
- (2) 地域農業の活性化及び人材育成に関すること。
- (3) 企業参入による地域農業の振興と雇用創出に関すること。
- (4) その他、両者が必要と認める事項

新しい農業公社『一般社団法人ニューアグリベース』は、次の事業を展開していきます。

- (1) 時代に対応した多種多様な人材の育成
- (2) 人口減少時代においてスマート農業等を活用した効率的な農業産業の構築
- (3) 国内需要から海外需要まで生き残るために DX 等を活用した新たな販路や事業支援
- (4) 地域内だけでなく全国・海外の企業等と連携した視野の広い事業の構築
- (5) 農業だけでなく様々な業種と連携した事業の構築

本事業を展開する施設整備エリアは、本県サッカーチームのデゲバジャーロ宮崎（J3）の本拠地スタジアムの北側に位置します。

そこに、「新たな農業生産技術の開発研究、新規作物の栽培及び実証実験ハウス」「農畜産物直売所」「商品開発加工施設」等の施設整備事業を計画しています。



※1 ペプチドはアミノ酸が複数つながったものです。植物の代謝や組織間の情報伝達の要として働き、生育環境への適応や耐性向上などに欠かせない重要な成分です。

以上

<本件に関するお問い合わせ先>

三洋化成工業株式会社 広報部

電話 075-541-4312

宮崎県新富町 産業振興課

電話 0983-33-6034